

ぼんぼん時計

JSPS Bonn Office

独立行政法人 日本学術振興会 ボン研究連絡センター
四半期活動報告
(2010年4月～6月)

< 目 次 >

1. ドイツ連邦レベル等での学術・高等教育動向

- 1-1 新たな国民奨学金制度を採決
- 1-2 国際的な博士号取得プログラムを開始
- 1-3 教育の質向上とモビリティ促進に向けた取組
- 1-4 2008年の教育・研究費支出は微増

2. ボン研究連絡センターの活動

- 2-1 JSPS サマープログラムプレオリエンテーション開催
- 2-2 日独高等教育改革シンポジウム参加
- 2-3 ボン大学主催留学フェア参加
- 2-4 筑波大学ボン事務所開所式出席
- 2-5 名古屋大学ヨーロッパセンター開所式出席
- 2-6 第1回 JSPS 独・仏同窓会、ボン・ストラスブールセンター合同フォーラム開催
- 2-7 在独日本大使館主催 日本人研究者ネットワーク会議参加
- 2-8 フンボルト財団年次総会出席
- 2-9 ドイツ学術交流会 (DAAD) 主催 ネットワーク会議参加
- 2-10 その他来訪&訪問、会議出席等

3. 今後の予定

- 4. その他お知らせ
- 5. センター長雑感

1. ドイツ連邦レベル等での学術・高等教育動向

1-1 新たな国民奨学金制度を採決

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr. 17/ p. 2-3 2010年4月26日参照

BMBF HP Press 2010/4/21 (<http://www.bmbf.de/press/2835.php>)参照

ドイツ連邦議会は、優れた学生のための新しいドイツ国民奨学金制度を採決した。新奨学金制度では、家庭の経済的事情は考慮されず、成績によってのみ審査される。

新国民奨学金制度では、月々300ユーロが20万人に支給されることになっており、300ユーロのうち半額を連邦と州が共同で負担、残りを各大学が企業、大学OB等からの寄付で賄うこととされている。議会を通過した法案では、2013年開始の新奨学金制度のために、連邦と州が約3億ユーロ、残りの3億ユーロをスポンサーが負担するとしている。シャバーン連邦教育研究大臣は、連邦奨学金に加えて二つ目の重要な学生への経済支援制度設立を評価した。一方で、野党と労働組合は格差が広まると批判し、当該予算は連邦奨学金増額に回すべきと要請した。

ドイツ大学長会議会長のマーガレット・ヴィンターマンテル氏は、学生支援の更なる強化という政府の姿勢を歓迎しているが、経済界が資金提供に理解を示していないため、構想は修正が必要と見なしている。また、民間からの資金調達には付随的な事務経費を要すること、さらに、大企業との協力関係が深い大学に有利となることも懸念している。

その他、経済的理由により就学が困難な学生のための連邦奨学金(BAföG)の額も今秋から月平均13ユーロ増額されることが採決された。連邦奨学金の改正法では、次の冬学期から両親の所得控除額を3%、支給額を2%とそれぞれ引き上げ、奨学金支給額は最大で月額670ユーロに上昇する。奨学金受領のための成績証明方法と受領年齢制限の緩和も合わせて実施され、修士課程においては、年齢制限が30歳から35歳に引き上げられることになる。また、大学在籍中に子供を養育した場合は、奨学金受領可能期間が長くなる。

(ボンセンター)

1-2 国際的な博士号取得プログラムを開始

BMBF HP Press 2010/5/12 (<http://www.bmbf.de/press/2853.php>)参照

DAAD HP Press 2010/5/12(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2010/13814.de.html>)参照

ドイツ学術交流会(DAAD)は、大学での国際的な博士号取得プログラムを創設し、連邦教育研究省から2010年から2013年までの間に合計1500万ユーロを支援されることとなった。国際的な博士号取得プログラムには、ドイツの大学における博士課程の学生教育の国際化、二国間の博士号取得ネットワークの構築、という2つの支援方針がある。本プログラムは、大学を通して応募

することができ、大きな成果をあげるプロジェクトについては、年間10万ユーロまでを上限として受け取ることができる。

(ボンセンター)

1-3 教育の質向上とモビリティ促進にむけた取組

BMBF HP Press 2010/5/17 (<http://www.bmbf.de/press/2858.php>) 参照

シャバーン連邦教育研究大臣は5月17日、州や大学、経済界、労働組合そして学生の各最高代表者をベルリンに招き、ボローニャプロセスの継続実施について議論した。今後も年に一度、国内でボローニャ会議を開催するべきとの方針が提示されている。

連邦政府は20億ユーロを今後10年間、大学の教育改善の為に提供する。この追加資金は、学生管理、学生教育やカウンセリングなど、職員の資質を向上させ教育の改善へとつなげるために用意されている。

また、流動性促進のための資金を2015年までに約9000万ユーロ増額し、4年間の学士課程の中に外国留学や語学研修が組み込まれたプログラムを促進する。現在の連邦奨学金改正法により、ECTS (European Credit Transfer System =ヨーロッパ単位互換制度) ポイントが成績証明として導入され、修士課程学生の年齢制限が引き上げられる。

(ボンセンター)

1-4 2008年の教育・研究費支出は微増

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr.22/ p.5-7 2010年5月31日参照

BMBF HP Press 2010/5/28 (<http://www.bmbf.de/press/2868.php>)参照

連邦統計局の発表によれば、2008年ドイツにとって最重要分野とされている教育と研究への支出額は約2150億ユーロで、国内総生産(GNP)の8.6%を占める。当該分野内で支出割合が最も高かったのは幼稚園、学校、大学における教育、いわゆる第一次職業教育で、1200億ユーロ強。研究・開発への支出に関しては、企業、民間研究機関による投資額は554億ユーロで、2008年の総支出額の4分の1以上にあたる。2000年以降教育と研究のための公的支出は減少し、2007年では教育・研究・学術への公的支出は約2040億ユーロであり、GNPの8.4%相当であったが、今回、増加に転じたとしている。

また、統計局は今回初めて支出者分類リスト(2007年分)を発表した。それによれば、連邦と地方自治体が2040億のうちそれぞれ約12%を支出し、州は40%である。全支出の64%は公共機関からの負担であり、残り35%が国内の民間産業から、1%が外国からの支出となっている。学術・研究分野を除き教育分野だけに限定すると、2007年投入された全資金の79%は公的機関からの予算であり、そのうち、11%が連邦、53%が州、15%が地方自治体からそれぞれ負担され

ている。学術・研究分野ではこの比率が逆転し、連邦政府等の公的機関からの投資は32%にとどまる。

2009年の数値は未発表であるが、約1年半前のドレスデンでの教育サミットで決定した、2015年までの達成目標である教育・研究費の対GNP比10%について、メルケル首相もシャバーン連邦教育研究大臣も変更がないこと確認している。シャバーン大臣は「10%目標に近づいているが、経済危機の時勢に、教育・研究への投資が将来の備えの最善策であることに変わり無く、この成果に満足しないよう気をつけなければならない」と語る。

(ボンセンター)

2. ボン研究連絡センターの活動

2-1 JSPS サマープログラムプレオリエンテーション開催

月日：2010年5月7日

場所：グスタフ・シュトレッセマン会議場（ボン市）

ボン研究連絡センターでは、JSPS サマープログラムに採用された渡日間近の若手研究者に対し、日本での研究を有意義に開始してもらうとともに、親睦を深めてもらうことを目的としたオリエンテーションを毎年ボンで開催している。本年度は採用者13名のうち9名が参加した。

当日は小平所長の挨拶で始まり、ドイツ側推薦機関であるDAADからMs. Karin Moeller氏が日独交流事業の説明、各参加者による自己紹介、宮元副所長からJSPSの紹介および当該プログラム概要説明が続いた。休憩をはさみ、JSPSドイツ同窓会役員 Ms. Sabine Ganter-Richter氏から同窓会の紹介、昨年度の本プログラムのフェロー Mr. Daniel Schütze（ボン大学）、Ms. Sarah Schlachetzki（チューリッヒ大学）によるプログラム参加体験談、質疑応答があり、最後に参加者を囲んでの夕食会となった。



参加者集合写真



Mr. Schütze による体験談発表

元フェローによる体験談では、日本での研究、日本生活における秘訣、日本での文化体験、お勧めの旅行地などの体験談が話され、参加者にとってサマープログラムの具体的なイメージを掴むことができ、大変有意義なものであったと思う。その後の質疑応答、夕食会でも話が尽きることはなく、日本生活に対する関心の高さをうかがわせた。

(佐々木)

2-2 日独高等教育改革会議参加

月日：2010年5月17日、18日

場所：Seminaris Campus Hotel, ベルリン日独センター（ベルリン市）

本会議はドイツ大学長会議（HRK）、ベルリン日独センター（JDZB）と日本の国公立大学国際交流担当委員長会議（JACUIE）との共催により、グローバル化が進む日独の大学を取り巻く環境と、その中でいかにして国際的発展を進めていくべきかを議論するため開催されたものである。2日間に渡る会議では、日独双方から大学長等の幹部を中心とした高等教育関係者約150名の参加があり、この問題に対する関心の高さが伺えた。

1日目は、日独の大学を取り巻く環境とグローバルCOE（日本）、エクセレンス・イニシアティブ（ドイツ）などの大学国際化に対応する卓越した教育研究支援の方策について、講演とパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、当センターから小平所長がパネリストとして招待され、大学国際化支援に資するJSPSのファンクションのほか、学長経験者の立場から国立大学法人化以降の競争的資金獲得競争や大学評価など、絶え間ない日本の大学改革を取り巻く状況を説明された。また、高等教育改革という観点では日独の大学の置かれている状況は近似しており、それぞれがアジアと欧州の大学協力のハブとして機能すべきとの認識も示された。



パネルセッションで発言する小平所長

降の競争的資金獲得競争や大学評価など、絶え間ない日本の大学改革を取り巻く状況を説明された。また、高等教育改革という観点では日独の大学の置かれている状況は近似しており、それぞれがアジアと欧州の大学協力のハブとして機能すべきとの認識も示された。

2日目は日独双方の近年の大学運営の変遷、および大学の戦略的国際化にかかる講演とディスカッションがおこなわれた。ドイツにおいても長らく政府の下部組織と見なされていた大学に、競争原理が持ち込まれ、パフォーマンスに応じた様々な予算配分ツールの導入がされているといった報告は、同様の環境におかれている日本側参加者の興味を引きつけおり、活発な質疑応答が交わされた。また、大学の国際化においては、ボローニャプロセス導入の経緯やプロセス実施上の問題点など、日本側から特に関心の高かった学生の流動性についての状況説明が主になされ、双方の理解を深めていた。

(宮元)

2-3 ボン大学主催留学フェア参加

月日：2010年5月19日

場所：ボン大学（ボン市）

ボン大学国際課主催の留学フェア「AUSLANDS STUDIENMESSE」が、5月19日にボン大学にて開催された。会場には世界各国の大学、学術機関がブースを構え、留学を希望するボン大学生に対して自国や大学のアピールを行った。

JSPS ボンセンターも出展に参加し、サマープログラムなどの若手研究者向けプログラム説明を行うとともに、2名の国際協力員は各々所属の横浜国立大学、東京工業大学の資料も設置した。

また、講義室では各機関代表による講演も行われ、宮元副センター長からJSPSサマープログラムを中心としたフェローシップ事業等の概要紹介を行った。早稲田大学、ソウル大学校とともに日本、韓国への留学希望者を集めた講演では、大学で行われる英語によるカリキュラム等についての関心が寄せられていた。日本への留学希望者は、数としては欧米に比べて多いとは言えなかったが、希望者の日本への関心は大変高いものであった。



プログラムを説明する齋藤協力員



宮元副所長による JSPS フェローシッププログラムの説明

(齋藤)

2-4 筑波大学ボン事務所開所式出席

月日：2010年5月19日

場所：ドイツ博物館（ボン市）

5月19日、20日の両日にボン市にて筑波大学ボン事務所の開所記念行事が行われた。ボンセンターからは、宮元副所長、齋藤国際協力員、佐々木国際協力員が出席した。

19日の開所記念レセプション（於ボン国立博物館）には、ドイツ側からノルトライン・ヴェストファーレン州イノベーション・科学技術研究省 Michael Stueckradt 次官、DAAD の Christian Bode 会長、ボン大学 Juegen Fohrmann 学長など、また、日本側からは、文部科学省の氷見谷直

紀高等教育局国際企画室長、在独日本大使館西井知紀参事官などが出席した。

翌20日には日独に共通する社会問題である高齢化社会へ焦点を当てた「高齢化問題への挑戦」と題した学際的ワークショップ(於ボン科学センター国際会議場)が開催された。山海嘉之筑波大学教授及びウォルフガング・マイヤーボン大学医学部教授による基調講演



開所記念レセプションの様子

の後、新井誠筑波大学ボン事務所長の進行により日独双方の医学、法律、ロボット工学等の専門家によるパネルディスカッションが行われた。同大学はこのボン事務所を学术交流の拠点として運用していく意向であり、その点で当該ワークショップは有意義なものに感じられた。また、ロボットスーツ等の開発により最先端研究開発支援プログラム、グローバルCOE等の採択を受けている山海教授の講演では、大学で行う基礎研究を医療の現場と協力することで社会に還元していく研究内容が紹介され、大変興味深いものであった。

(齋藤、佐々木)

2-5 名古屋大学ヨーロッパセンター開所式出席

月日：2010年5月19日

場所：名古屋大学ヨーロッパセンター(フライブルク市)

上記2-4と同日、ドイツ南部にある環境都市として有名なフライブルク市において、名古屋大学ヨーロッパセンター開所式が行われ、JSPSボンセンターから小平所長が出席した。当日は、バーデン・ビュルテンベルク州科学技術文化大臣、フライブルク大学長からの祝辞の他、在独日本大使館、ストラスブール大学、グダニクス医科大学、並びに小平所長から挨拶が行われた。

名古屋大学はフライブルク大学と法学分野の学术交流を中心として大学間交流を活発に進めていたが、今般の海外拠点設置により、欧州との教育研究交流と産学連携を推進するうえで、更なるプレゼンス向上が期待される。

なお、今年ドイツに拠点を設置した筑波大学と名古屋大学からは、JSPSボンセンターが毎年秋に主催するJSPS国際事業紹介を中心とした渡日プログラムおよび日本の大学紹介イベントへの参加にも早速快諾をいただいた。日本の大学が欧州でのプレゼンスを高められるよう、今後ともJSPSボンが各大学の活動を積極的に支援するとともに相互に協力していきたい。

(宮元)

2-6 第1回独仏同窓会、ボン・ストラスブールセンター合同フォーラム開催

月日：2010年5月21日、22日

場所：ストラスブール大学（フランス ストラスブール市）

JSPSとしては初となる、2カ国のJSPS同窓会と海外研究連絡センターによる合同フォーラムが、日本からの講演者を含め、ドイツ、フランスから約300名の参加者を迎えて盛大に行われた。本フォーラムは、学際的な視点から「食」に関わるテーマを取り上げ、哲学、社会学、医学、栄養学、神経科学、地質学、調理科学、美味学等の分野から、「健康」、「嗜好」、「食の供給」に関わる最新の研究結果についての講演および質疑応答が行われ、「食の科学」が多くの異分野の科学に立脚していること、「食の文化」が日仏独の人々の豊かな知識になりつつあることが伺えた。フォーラムの詳細は、ストラスブールセンターから別途報告される予定なので、そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

なお、フォーラムの様子は、フランス高等教育・研究省推進のCanal-Uを通して、インターネット同時中継で配信するとともに、以下のサイトにて長期間に渡り視聴が可能である。

(<http://www.canalc2.tv/>)

(宮元)

2-7 在独日本大使館主催 日本人研究者ネットワーク会議参加

月日：2010年5月28日

場所：在独日本大使館（ベルリン市）

本会議は毎年1回在独日本大使館主催で行われており、ドイツ在住の日本人研究者の情報交換の場となっている。

本年は、当センターから小平所長が招待され、学術講演とJSPS事業の周知を行った。当日はベルリン近郊滞在の日本人研究者を中心に約30名の参加があり、当地での研究活動状況や生活の問題等について活発に情報交換を行っていた。



講演する小平所長

(宮元)

2-8 フンボルト財団 (AvH) 年次総会出席

月日：2010年6月22日

場所：ベルリン自由大学（ベルリン市）

毎年初夏の頃に開催されるフンボルト財団年次総会に宮元副所長が出席した。68 カ国から 600 名を超えるドイツ滞在中のフェローとその同伴者および関係者が招待され、盛大に行われた。会場となったベルリン自由大学の Prof. Peter-Andre Alt 学長および AvH の Helmut Schwarz 会長からの挨拶の後、2001 年ノーベル物理学賞受賞者である Prof. Wolfgang Ketterle が基調講演を行った。

昨年から開始されたフンボルト同窓会発展に資するイニシアティブ提案を表彰する“フンボルト同窓会賞”授賞式も同時に行われ、2010 年は 3 名（日本、イタリア、チリ）が表彰された。そのうちの一人は筑波大学大学院法学研究科の荒井誠教授で、ドイツとアジアにおける高齢化社会研究のネットワーク構築が高く評価された。荒井先生は筑波大学ボン事務所の管理責任者でもあり、当センターとも度々コンタクトがあるゆえ、この表彰は大変喜ばしい。

また、当日、宮元は AvH フェローとしてドイツに滞在中の日本人若手研究者数名と懇談する機会があったが、彼らは一様にフェローに対する AvH のホスピタリティーの高さに感激しており、ドイツ滞在に満足している様子であった。特に、ポストドクレベルの研究者は家庭を持ち始める年齢層の割合が高いことから、家族分の滞在費も支給されることは魅力的である。また、本総会も含めた学術・文化的イベントの多さと参加への資金的補助など、より良い生活文化環境の提供が、ドイツ好きな外国人研究者を増加させる要因であろう。

(宮元)

2-9 ドイツ学術交流会 (DAAD) 主催ネットワーク会議参加

月日：2010 年 7 月 8 日

場所：DAAD 本部（ボン市）

本会議は、DAAD の各在外事務所長や海外インフォメーションセンター担当者らが一堂に会し、各国の学術研究・高等教育の動向を報告するとともに、ドイツ国内大学等の国際交流担当者への情報提供と質疑応答を行うものである。参加する各大学等は質疑応答を希望する国の事前登録を行い、会議当日の指定時間にそのブースを訪れるという仕組みとなっている。JSPS ボンセンターも日本の情報提供機関として DAAD から招待され、事務所を相談ブースとして情報提供を行った。

当日は、日本の大学との交流強化を進めるゲッティンゲン大学およびブラウンシュバイク工科大学の国際担当者
と各 40 分程度の質疑応答を行った。ゲッティンゲン大学



ゲッティンゲン大学担当者との質疑応答

は、ハイデルベルク大学とカールスルーエ工科大学そして京都大学、大阪大学、東北大学の日独6大学コンソーシアム設立を予定しており、その枠組み支援の可能性について相談を行った。ブラウンシュバイク工科大学は静岡大学との共同学位プログラム開始にともなう支援可能性についての相談を行った。

(宮元)

2-10 来訪&訪問、会議出席等

【4月】

- 04月01日(木) 齋藤秀人国際協力員および佐々木貴大国際協力員が着任
- 04月09日(金) 筑波大学ヨーロッパセンター 和田奈穂子職員、Dan T. Wichter 職員が事務所開所式打合せのため来訪
- 04月11日(日) JSPS 本部河村研究協力第一課長、大場博哉専門職員がGPC 会議出席のため来訪(～13日)
- 04月12日(月) JSPS 本部河村研究協力第一課長、小平所長および宮元副所長がDFGにて日独交流150周年記念シンポジウム打合せ(於ボン)
- 04月15日(水) 2010年度JSPS再招へいプログラム選考会実施(於ボン)
- 04月19日(月) 名古屋大学国際交流協力推進本部 Harriet Ng氏が交流プログラム情報交換のため来訪
- 04月21日(水) 小平所長がセンター長会議出席等のため一時帰国(～27日)
- 04月26日(月) DAAD東京事務所 Stafanie Nartschik-Mikami氏が意見交換のため来訪

【5月】

- 05月05日(水) ケルン日本文化会館 上田館長がシンポジウム打合せのため来訪
- 05月07日(金) JSPS サマープログラムプレオリエンテーション開催(於ボン)
- 05月11日(火) 宮元副所長がフォーラム打合せのためストラスブールセンター訪問(於ストラスブール)
- 05月17日(月) 小平所長、宮元副所長が日独高等教育改革会議に出席(於ベルリン)(～18日)
- 05月19日(水) ボン大学主催海外留学フェア参加(於ボン)
- 05月19日(水) 小平所長が名古屋大学ヨーロッパセンター開所式出席(於フライブルク)
- 05月19日(水) 宮元副所長、齋藤国際協力員、佐々木国際協力員が筑波大学ヨーロッパセンター開所式出席(於ボン)
- 05月21日(金) 第1回仏・独JSPS同窓会、ボン・ストラスブールセンター合同フォーラム開催(於ストラスブール)(～22日)
- 05月28日(金) 小平所長が在独日本大使館主催 在独日本人研究者ネットワーク会議にて講演(於ベルリン)

【6月、7月】



- 06月01日(月) 小平所長が在独日本大使館主催 教育広報事業(ドイツ中・高校生向け講演会)にて講演(於ベルリン)
- 06月04日(金) 国立情報学研究所 三浦謙一教授が表敬訪問
- 06月06日(日) 中川正志次期副所長が業務引継のため来訪(～11日)
- 06月08日(火) 在独日本大使館西井参事官が日独交流150周年記念シンポジウム打合せのため来訪
- 06月09日(水) 在デュッセルドルフ総領事館 小井沼紀芳総領事および大隈副領事が同窓会活動支援の意見交換のため来訪
- 06月10日(水) 小平所長がフンボルト財団海外派遣フェロー選考会出席(於ボン)
- 06月13日(日) JSPS本部河村研究協力第一課長、大場博哉専門職員がGPC会議出席のため来訪(～16日)
- 06月16日(水) JSPS本部河村研究協力第一課長、大場専門職員、宮元副所長およびAlbers職員がDFGにて日独交流150周年記念シンポジウム打合せ(於ボン)
- 06月21日(月) 宮元副所長がフンボルト財団年次総会出席(於ベルリン)
- 07月01日(木) 早稲田大学ヨーロッパセンター 金沢美知子マネージャー、Springmann事務長がプログラムプロモーション打合せのため来訪
- 07月08日(木) DAAD主催ネットワーク会議参加(於ボン)
- 07月08日(木) DAAD Dr. Toyka-Foung 東アジア・オセアニア担当課長がシンポジウム打合せのため来訪
- 07月14日(水) 宮元副所長帰国

3. 今後の予定

2010年

- 07月28日(水) 小平所長が独日6大学コンソーシアム会議参加(於ハイデルベルク)
- 07月31日(土) 中川新副所長着任
- 08月04日(水) Albers職員、齋藤国際協力員がフライブルク大学サマースクール開講式出席および渡日プログラム紹介イベント実施打合せ(於フライブルク)
- 08月04日(水) 佐々木国際協力員がボン大学サマースクール開講式出席(於ボン)
- 08月05日(木) フンボルト財団主催フェオドア・リューネン・フェロー派遣前オリエンテーション及び帰国者情報交換会出席(於ボン)
- 08月30日(月) 小平所長、佐々木国際協力員がブラウンシュバイク工科大学-静岡大学共同学位プログラム開設シンポジウム出席(於ブラウンシュバイク)
- 09月06日(月) 小平所長、齋藤国際協力員がアーヘン工科大学-大阪大学日独共同大学院プ



- グラム開設シンポジウム出席 (於アーヘン)
- 09月08日(水) JSPS Abend 開催 (於ボン)
- 09月13日(月) 小平所長および Albers 職員が日独交流 150 周年記念 JSPS ドイツ同窓会
共催シンポジウム出席 (於東京) (~15日)
- 09月22日(水) NRW 州イノベーション・学術研究・科学技術省、JSPS 共催ワークショップ|
催 (於ボン)
- 09月28日(火) ケルン日本文化会館、JSPS 共催シンポジウム開催 (於ケルン)
- 11月05日(金) 日本の大学及び渡日プログラム紹介イベント開催 (於フライブルク)
- 12月07日(火) ベルリン日独センター、JSPS 共催シンポジウム開催 (於ベルリン)
- 2011年
- 02月16日(水) 第7回日独コロキウム開催 (於ミュンスター) (~19日)
- 05月20日(金) 日独交流 150 周年記念 日独シンポジウム 2011 開催 (於ベルリン)
(~21日)

4. その他お知らせ

4-1 ドイツ学術交流会 (DAAD) 新会長の就任

Prof. Dr. Stefan Hormuth 前会長の逝去により空席となっていた DAAD の新会長がこの度発表され、2010. 7. 1 付でポツダム大学長の Prof. Dr. Sabine Kunst 氏が就任することです。

(DAAD Magazin HP) <http://www.daad-magazin.de/14329/index.html>

4-2 副センター長の交代

2010年8月1日から、新副センター長として中川正志氏(新潟大学)が着任いたします。中川氏は2006年4月から1年間当センターで国際協力員として実務研修を行っておられました。その実績から、円滑そしてより活動的なセンター運営が期待されます。なお、私(宮元)は2年間の任期を終え、2010年7月14日に帰国し、所属元の東北大学にて勤務を再開することになります。これまでの皆様のご協力、ご支援に感謝申し上げます。

(宮元)

5. センター長雑感

ボンでは6月後半から猛暑が続いている。着任して丸2年が経ち、7月から8月に掛けて、宮元副センター長が後任の中川さんと交代する。宮元さんは知識も広く有能なので、頼りにして本当にお世話になった。この紙面を借りて心よりお礼を申し上げたい。文化の異なる組織や人を相手



とするセンター業務の現場では、きめ細かさと柔軟性が要求される。この間、日本での政権交代やドイツでの大学改革、中国・インドの発展とEUの新展開に伴い、多くの課題に直面し、日独間の関係も新たな段階に差し掛かりつつある。しかし局面は変わっても、国際学術協働は相互の信頼と理解の上に成り立っていることには変わらない。長期的な展望の下に気長に基礎から築いて行く他に道は無いし、築いた資産は大切に発展継承させて行きたい。昨今盛んな「見直し」も必要だろうが、「糞に懲りて膾を吹く」ように、大切な枝葉を刈り取って根を枯らさないように、十分に配慮していきたいものと感じている。(7月5日)

(小平)

ぼんぼん時計第28号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777
www.jsps-bonn.de